

⑪ 文化力による未来づくり

20年後に実現したい姿

【誰もが文化に親しめる社会】

●誰もが、年齢、性別、障害の有無、経済的な状況、居住する地域等に関わらず等しく、多様な文化に親しみ、参加し、文化を創造することができる環境を整備することで、自らの文化的表現力を高め続けられる社会が実現しています。

【文化が活力を生み出す社会】

●芸術や伝統芸能、生活文化等の多様な文化と、観光、産業、福祉、教育など幅広い分野とが相互に結びつき、刺激し合うことで、それぞれの魅力と付加価値が高まり、各地域が活性化し、暮らしと経済の好循環が生み出されている社会が実現しています。

【感性豊かで創造的な社会】

●伝統的な文化から先端技術を活用した現代アートまで、多彩な分野で活動する国内外の人々が、京都を舞台として交流・協働し、その交わりから新しい文化が生まれ続ける社会が実現しています。

【暮らしの中に多様な文化が息づく社会】

●衣食住の生活文化をはじめとする文化が日常生活に息づき、日々の暮らしの中で、先人の積み重ねを実感できている、地域文化の多様性が大切にされている社会が実現しています。

4年間の対応方向・具体方策

切れ目のない、世代を超えた文化体験を充実し、文化に関わる（担う・支える・楽しむ）人が増え、その裾野を広げる取組を進めます。

- 1 府内各地で「ミュージックキャンプ」を開催し、その成果を「府民総合奏」として京都スタジアムで発表
- 2 世界のアート関係者と京都のアーティストをつなぐ機会を創出し、世界のマーケットで活躍できる人材を育成
- 3 府立大学和食文化学科等と連携した和食文化人材の育成、茶道、華道その他の生活文化を学ぶ機会の創出
- 4 小学校等に芸術家・工芸家等を派遣し、体験活動を行う「京都式文化体験プログラム」を展開
- 5 高校生や歴史・建築を学ぶ大学生を対象にした、建造物修理現場の見学や職人体験事業の実施

伝統文化、生活文化を継承するとともに、文化財の保存・継承・活用を進めます。

- 6 「文化財保存・活用促進プロジェクト」を創設し、
 - ▷社寺等の文化財において地域の特色を生かした文化に親しむ取組の支援など、文化財の「保存」と「活用」の好循環を創出
 - ▷文化財の公開等を支援する、文化財の専門知識を有した人材の養成
 - ▷VR、AR等の利用による文化財の観光・教育資源等への活用。学研都市における、触れることのできるクローン文化財の展示・作製拠点の整備
- 7 史跡を巡るツアーの実施や国宝等の文化財建造物修理現場の公開等の推進
- 8 古典の日フォーラム等古典を広く根付かせる取組を、文化庁とともに全国に広げ、朗読コンテスト等を実施
- 9 京都の暮らし・文化と密着した花材のニーズに応えるため、花きの供給体制を構築
- 10 文化財保存活用大綱において府内の文化財の適切な保存と活用を図るための基本方針を提示
- 11 府内に多数存在する貴重な文化財の保護のため、「暫定登録文化財」制度により緊急の保護対策を推進
- 12 「双京構想」の実現に向けて、京都市をはじめとする関係機関と連携した取組の推進

多彩な交流の場を創出し、新たな文化を創造します。

- 13 京都経済センター等において、先端産業等の技術研究者等と文化芸術関係者との交流の場の創出

- 14 コンテンツ関連企業の集積により、クリエイターや研究者等が交流できる環境の整備
- 15 伝統芸能や美術工芸など多分野の文化芸術団体のネットワーク化と連携により文化創造を促進

地域における文化活動の振興を図り、観光、まちづくり施策との連携を進めます。

- 16 「地域文化継承プロジェクト」として、地域の祭り等の担い手確保に向け、外部人材活用の仕組みを創設
- 17 「京都府ミュージアムフォーラム」及び京都市内博物館施設連絡協議会と連携した地域文化講座等の実施
- 18 大学や文化団体、博物館等が実施する文化講座を、ネットを活用して配信できる仕組みの整備

世界のマーケットを見据えた取組を進めるなど、文化関連産業の振興を図るとともに、文化を生かした新たな産業の創造を促進します。

- 19 「京都国際アートフェア」を開催し、一流アーティストの作品や京都と世界のクラフトを一堂に鑑賞、販売できる機会を提供
- 20 アート&クラフトの拠点の形成、文化芸術作品の制作・発表・海外販売まで、一貫して行えるサイクルの創出
- 21 産業やスポーツツーリズムと文化芸術を融合させ、観光や地域振興にも貢献する取組を推進
- 22 クリエイターの表彰制度等による、コンテンツ事業者の支援

京都の文化の国内外への発信を進め、文化を通じた国際交流を進めます。

- 23 VR、AR等を活用した地域の文化資源を体験できる、「地域文化次世代情報発信・体験拠点」の整備
- 24 文化施設の多言語対応やナイト鑑賞、多様な情報発信等による、文化・芸術鑑賞等のバリアフリー化の推進
- 25 留学生や海外への留学予定者に対し、京都文化を体験する取組の実施
- 26 「文化力プロジェクト2016-2020」の推進など、文化が身近なものと感じられる取組の推進

文化活動を支援するための専門人材等の確保を進め、文化活動拠点の整備を進めます。

- 27 様々な規模の劇場等が集積した「シアターコンプレックス」など、旧総合資料館跡地、植物園などの整備
- 28 地域アートマネージャー等の配置によるシンクタンク機能や持続的な事業推進のための体制整備
- 29 北部地域の歴史、文化、観光の拠点施設となる博物館をめざし、府立丹後郷土資料館をリニューアル
- 30 府の整備施設において、例えば整備費の1%相当をその施設に関連、付随する芸術・アートに活用